伊藤青少年育成奨学会
奨学会だより
2007.10.1
vol.5
年2回発行
(4月・10月)

■恵那市中央図書館が開館
■先輩からの便り紹介
■奨学生の声の紹介
■平成19年度スポーツ振興贈呈式が行われました
シリーズ 第5回 この本をあなたにも薦めたい

シリーズ —第5回— この本をあなたにも薦めたい

財団法人
伊藤青少年育成奨学会
評議員 征矢野 薫

散るぞ悲しき

著者、梯久美子さんはある手紙をきっかけに、硫黄島の戦いに関心を持った。栗林忠道の子息や生還者の方々も含め、多くの関係者に会いこの本をまとめ上げている。

栗林中将は2年間のアメリカ生活を経験し、日米間の軍事力、経済力の差が大きい事を知っていた。そこに勝利の確率は低いと知りつつも、本土への空襲を少しでも遅らせるため、どんな犠牲を払っても持久戦に持ち込もうとしたのである。

硫黄島は硫黄の熱気や水不足など劣悪な環境との戦いでもあり、武器資材不足の中で“勝つ”のではなく“敗けない”ために彼が選んだのはゲリラ戦であった。

数日で攻略できると思われていた戦いが1ヶ月以上もかかり、かつ予期せぬ多くの犠牲者が出たことなども含め、それまでと多くの点で異なるため米国でもこの島の戦いは語り継がれている。

栗林中将の手紙をはじめ、伝えられている行動の数々で彼の考え方が伺えると思う。この本をはじめとして多くの歴史書を読んでいただき、なぜこのように悲惨な戦争に突き進まなければならなかったのか考えてみて欲しい。

▲「散るぞ悲しき」
著者：梯久美子　発行所：新潮社

目録を手渡す伊藤理事長

スポーツ振興事業として総額1,000万円を援助

奨学会は7月17日、多治見市東町のセラミックパークMINOで、スポーツ活動に積極的に取り組む県内の高校21校26団体への部活動費の贈呈式を行った。奨学会は平成12年設立後積極的な活動をしている高校の運動部を対象に、毎年部活動費の贈呈を実施している。贈呈式には、学校関係者ら約50人が参加。伊藤理事長は「スポーツを通じて心身ともに豊かな人間性の育成に役立ててもらいたい。今後も青少年育成に力を注ぎたい」とあいさつした後、学校関係者らに目録を手渡した。

平成19年度 スポーツ振興事業等 被援助団体及び援助額

県下の高校運動部に対する資金援助

学校名	部名	金額(円)
岐阜総合学園高等学校	硬式野球	370,000
県立岐阜商業高等学校	テニス	200,000
	男子バレーボール	270,000
岐阜各務野高等学校	ホッケー	400,000
羽島北高等学校	フェンシング	540,000
岐阜盲学校	ゴールボール	200,000
岐阜女子高等学校	バスケットボール	480,000
岐阜第一高等学校	自転車競技	470,000
大垣特別支援学校	サッカー	400,000
八百津高等学校	硬式野球	390,000
東濃実業高等学校	陸上競技	480,000
多治見工業高等学校	硬式野球	480,000
土岐商業高等学校	バスケットボール	240,000
恵那高等学校	ボート	380,000
恵那農業高等学校	テニス	200,000
恵那南高等学校	スケート	300,000
	ソフトテニス	290,000
中津商業高等学校	レスリング	500,000
	スケート	480,000
中津川工業高等学校	サッカー	410,000
中京高等学校	バレーボール	500,000
	スケート	380,000
益田清風高等学校	剣道	500,000
	弓道	350,000
飛騨高山高等学校	スキー	390,000
高山西高等学校	女子バレーボール	400,000
合計　21校・26運動部		10,000,000

平成19年度 伊藤喜美賞

日本の伝統や歴史文化、教育などに積極的に取組む個人や団体に贈られる。今年度は該当者なし。特別賞として右に掲載の3名に、2年間の奨学金の延長を決定した。

●賞の種類
最優秀賞、優秀賞、特別賞の3種類（支援総額500万円を限度とする）

渡邉　栄彦　岐阜大学医学部医学科5年
加藤　永里子　岐阜大学医学部医学科5年
後藤　晃宏　東京大学理学部大学院修士課程1年

お便りをお待ちしています

奨学会では皆様からのご意見・ご質問・感想などのお便りをお待ちしています。
ハガキまたはE-mailで下記の宛先までお送りください。

奨学会からのお知らせ

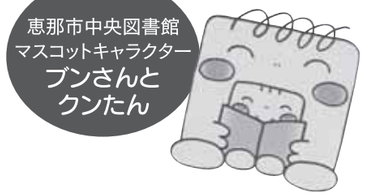
平成19年度後期奨学金支給のための「生活学業状況報告書」の提出は11月1日～20日となっておりますので他の書類と併せて提出して下さい。

財団法人 伊藤青少年育成奨学会事務局
〒507-0062 岐阜県多治見市大針町661-1
TEL 0572-20-0800(直)　FAX 0572-29-1168
E-mail:webmaster@ito-zaidan.or.jp
URL:http://www.ito-zaidan.or.jp/
発　行：財団法人 伊藤青少年育成奨学会
印　刷：トーヨー印刷株式会社

恵那市中央図書館 ～伊藤文庫～ が開館

「ふれあいひろば」もお披露目

財団法人
伊藤青少年育成奨学会
理事長　伊藤 喜美



▲図書館外観

恵那市中央図書館が7月7日、同市長島町中野にオープンした。

図書館は、財団法人伊藤青少年育成奨学会（理事長・伊藤喜美バロー相談役名誉会長）が建設し、市に寄贈した。市は、周辺に円形の芝生広場やステージなどを配した約3900平方メートルの公園「ふれあいひろば」を整備。ケヤキやツツジなど72種約6160本の樹木を植えた。

この日は開館を前に記念式典が開かれ、来賓や関係者約180人が出席。可知義明市長が「愛され、親しまれ、誇れる図書館にしたい」とあいさつ。伊藤理事長は「市民の人間形成や自己研さんの場となり、心豊かな青少年が育ってくれることを願う」と述べた。この後、可知市長、伊藤理事長らがテープカットし、新たな市立図書館のスタートを祝った。

▲新聞・雑誌が読めるコーナー

式典後は、開館を待ち望んだ大勢の市民が訪れた。また、館内では図書館のマスコットキャラクターも発表され、同市武並町竹折の丸山和代さん（39歳）が考案した「ブンさんとクンたん」が採用された。

▲開放感のある吹抜け

2007年(平成19年)7月20日　金曜日　中日新聞

バロー創業者 恵那に図書館

伊藤喜美氏

食品スーパー、バロー（岐阜県多治見市）創業者の伊藤喜美相談役名誉会長（八五）が、出身地の同県恵那市に私財約十億円を投じて設立した市立図書館「恵那市中央図書館伊藤文庫」が好評だ。七日の開館から十九日までに約一万二千人の市民らが訪れた。

伊藤氏は「勉強している子どもや、本を読んでいる親子の姿を見ると、つくって良かったと思う」と目を細め、戦時下に学徒出陣の命令を受けて入隊するまで図書館に通い詰めた自身の姿に重ねる。

「初めて図書館を訪れた時の荘厳な印象が忘れられず、あこがれは強かった」という当時の気持ちが、長い年月を経て、新しい市立図書館を望む恵那市への支援につながった。

図書館は二階建て、延べ床面積約二千六百平方メートル。蔵書は約十四万冊で、伊藤氏はこのうち約二万三千冊を寄贈している。

伊藤氏は復員後、一九五八年にバローの前身、株式会社主婦の店を創業。恵那市に一号店を開店した。社業の傍ら、高校生らの勉学・スポーツ支援のため、個人資産で設立した財団法人「伊藤青少年育成奨学会」が、今回の図書館を建設、市に寄付した。

開館2週間盛況

1万2000人読書楽しむ

▲バロー創業者の伊藤喜美氏が建物や書籍を寄付した図書館＝岐阜県恵那市で

先輩からの便り

紙面の都合により一部の方からの便りを掲載しました。

大学院へ進むにあたって

村上 暁　岐阜大学大学院農学研究科在学

大学四年間では様々なことを体験、経験し、考え、感じ、学ぶ事ができました。それぞれの学年で、違った事を得ることができ、その中でも特に一番大きかった事は、四年生の時の卒業論文に向けての研究だったと思います。それまでの大学生活はけっして薄いものというわけではないものの、最後の一年間に向けての準備段階だったと感じます。一、二年生での基礎的な学習、三年生での専門的な学習をふまえ、四年生で学んだことを最大限に使い応用し、更には自分で新しいものを生み出し、切り開くことを学びました。この成長は、学業だけではなく、人間関係などの生活面でも同じように成長し、自分という人間の質を上げることができたと思います。大学生活の一瞬一瞬が積み重なって四年生の研究を成し遂げることができました。そのため一番四年生の研究が大きかったと考えます。具体的に行った研究は、酸性土壌における植物のAl耐性に関する遺伝子の探索です。この研究テーマから研究テクニックなどを学んだことも大きいのですが、一年間全体を通して学んだといえることは、「考え方」だと思います。予想を立て、予想をもとに実験を組みたてて実験する。実験結果をもとに考察し、さらにその先の予想をたてる。研究では常に「考える事」が要求されます。この「考え方」と「考える事」の力が、今では自分の大きな武器だと思います。僕は自分の研究に興味を深くもち、更に追究したいと考えているため、大学院であと二年間学ぶのですが、その後に社会に出たときにきっとこの武器が役に立つと思います。この先、社会で働く大人達と渡り合っていくための力を得たことは、大学生活の大きな実りだと思います。まだまだ未熟ですが、「考える」力は絶えず成長していくことができる力です。これからの大学院の二年間でも更に成長することができるはずです。がんばって自分自身を磨いていきます。最後に、大学生活四年間で自分を成長させることができたのは、奨学金を頂き、学業に専念することができたためだと思います。本当にありがとうございました。

クルマ社会に生きる

桜井 大介　名古屋大学大学院工学研究科卒業

最近テレビや新聞で「飲酒運転」「駐車監視員」「バイオエタノール」といった“クルマ”に関連する言葉をよく目にします。これらの言葉は今年の流行語大賞にノミネートされるほど頻繁に取り上げられており、クルマ社会がもたらす弊害と対策がいかに注目を浴びているかが分かります。その中でも私が研究の対象として興味を持ったのが、ガソリン価格の高騰問題や、資源節約・環境汚染低減の運動が活発化する中で、世界中から注目を集めている“エタノール”です。エタノールとは、ガソリンの代替燃料になり得るという期待の高い燃料で、大学院ではエタノールを用いた燃焼実験を行いました。「飲酒運転」や「駐車監視員」に関しては、運転者一人一人が意識する事によって、解決し得る問題かと思われがちです。しかし、様々な対策を講じても交通事故による死亡者数は未だに年間1万人を上回っており、深刻な社会問題となっていることから、意識だけでは解決し得ない深刻な問題だと思います。人の生活を豊かにする為に作られたクルマが引き起こす問題をいかに解決するかという事は、クルマ社会を生きる私たちにとって今後ますます重要な課題になっていくと思います。私はこれから“未来のクルマ社会”に携わっていく仕事に就くことになりますが、魅力あるクルマを考え、快適性・安全性の機能を追求する事に加え、同時に飲酒運転・不法駐車・環境汚染といったクルマのもたらす“弊害”をいかに解決していくかを常に考える事が重要であり、それはクルマに携わる者の義務だと考えています。大学及び大学院で経験し、学び、身に付けた多くのことを今後社会に出てからも活かし、貢献していきたいと思います。最後になりましたが、大学入学から大学院卒業までの6年間もの間、学生生活を支援して頂いた（財）伊藤青少年育成奨学会の方々に深く感謝申し上げます。

学生生活の思い出

水野 賢志　早稲田大学スポーツ科学部スポーツ医科学科卒業

大学生活を振り返ってみると四年間あっという間でしたが、やはり部活動をしていたことが一番印象深いです。入学したばかりの頃は最下級生ということで、部内の雑務や会合時にOBへの挨拶回り等、やること覚えることがたくさんあり、その中で学業と両立、東京での生活、気づけばもう二年生になっていました。二年生では雑務の引継ぎや大学内での過ごし方などを教え、私はまだまだ先輩たちに支えてもらえるという安心感の中で後輩との仲を深めました。三年生になると、一、二年生の指導や四年生の補助などをしました。二年生まではまだ下級生気分でいましたが、三年生になると来年は自分達が部員をまとめていかなくてはという責任感が一層増してきました。三年次に主務の補佐をしていたこともあり、四年生には私が主務という大役を任されました。主務の仕事内容は、試合や合宿の場所決め等の取り仕切り・スケジュール把握や部費を管理していくことでした。どの月のどの場面でどれだけのお金を要するのか、それを一年間通してどのように使っていかなくてはならないのかを想定してやらなければなりませんでした。その仕事になかなか慣れず、練習時間が割かれることも多く、競技力の向上に悩みました。学校での授業や私生活、競技を同時に上手にこなしていくことができず、ストレスが溜まる毎日でしたが、私の気持ちを考えてくれる同期の仲間や後輩の多くの支えがあり、無事に終えることができました。この四年間を通して、部活動という一つの組織に属することで、様々な知識を体で覚えることができたと思います。しかし、一番よかったと思えることは、多くの友達や仲間を作れたことや、その人達の温かさを感じることができたことです。これからは大学を離れてしまいますが、一人の先輩として後輩を見守り続けたいと思います。四年間奨学金を頂き、サポートして頂いたお蔭で、無事に大学を卒業でき、次のステップに踏み出すことができました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。まだまだ東京で勉強していますが、将来は地元の方に帰りたいと考えています。四年間本当に有難うございました。

学生生活の思い出

青木 裕之　愛知大学法学部卒業

3月22日、大学の卒業式を迎え、無事卒業する事ができました。これは私一人の努力だけではなく、家族や友人、そして本奨学会等、様々な方のおかげだと思います。心から感謝したいと思います。母子家庭でありながら大学へ通うという事は、経済的に不可能だと思っていました。しかしながら、家族の支え、アルバイト先の理解、そして伊藤青少年育成奨学会様から給付していただきました奨学金を通じて、なんとか4年間大学へ通う事ができ、勉学に励み、教師という資格も取得でき、大学を卒業し就職する事ができました。奨学会だよりを毎回拝見させていただき、財団の活動には本当に尊敬するばかりです。奨学金制度の他にも図書館を寄贈したりと社会に貢献されている活動はすばらしいと思います。私も今までは多くの方に支えられてきました。これからは、私が誰かの支えになれるよう努力していきたいと思います。世の中は人と人とのつながりです。支え支えられて生きています。私もそのようなつながりの中で、自分にできる事を精一杯頑張り、努力していきたいと思います。4年間奨学金を給付していただきありがとうございました。重ねてお礼申し上げます。

奨学生の声

2007年４月までにいただいたお便りです。

丹羽 力人　早稲田大学 スポーツ科学部スポーツ文化学科2年（土岐商業高校卒）

学業では、一年間積極的に講義に出席し、単位数、質、共に大変納得のいく成果を挙げることができました。一般科目に加えて教職科目も履修し、野球と学業との過密なスケジュールの中で納得のいく成果を出せたことは、今後の大学生活を過ごしていく上で大きな自信になりました。それと同時に、この結果に満足するのでなく、傲らず今後も前向きに取り組んでいこうと思いました。専門的な話になりますが、生理学による人体の構造やその役割、法学での法律、民法、刑法などの仕組み、教育学などを学習し、憲法では日本の憲法だけに留まらず、他国の憲法にも目を向け学習しました。スポーツサイエンスだけでなく、他のジャンルを学習できるということを活かし、様々なことに視点を向けて積極的に参加、挑戦していきたいと思います。

奨学会からのコメント

あこがれの神宮球場で、野球部の投手として活躍、おめでとう。英国では学生時代のスポーツの意義は、リーダーシップの訓練だとか。生理学、法学おおいに結構、そういう大きな視野をもつ教育者、指導者の出現を地元では待っている。

宇野 晃祐　横浜国立大学 経営学部経営学科2年（県立岐阜商業高校卒）

１年生の学業を振り返り、教養科目に苦労した１年だったと思います。英語、数学、統計学、初めてのことばかりで、授業時間外に友達に教えてもらい取り組みました。納得することができる結果が残せたと思うことができました。2年生になる今年は、昼間の授業が取れるようになるので、専門科目を多く取っていこうと考えています。起業者から学ぶ講義など、活躍している人の意見を聞く機会などを大切にし、今後の社会において何が必要とされているか、何を大切にすればよいかを学んでいき、自分自身が成長していけたらいいなと思います。今の企業は、利益追求だけでなく、社会に貢献するような環境に目を向けたりしなければならないということを思いました。経営をしていく上で、必要と思うことを、学業だけでなく、日々の生活などからもわかるようにしたいです。将来をみすえ、また一歩自分を成長させていきます。

奨学会からのコメント

銭湯でのアルバイト、横浜から岐阜まで自転車での帰郷、教養科目の単位に値する。専門科目も狭義におちいらず社会的視点を忘れることなく。

岡田 翔太　京都大学 工学部情報学科2年（大垣北高校卒）

後期は、プログラムなど、前期に比べ、より専門的な講義がふえて、ようやく情報学科らしくなりました。新しいことを学ぶということは、新鮮な気がすると同時に、多くのことを覚えていかなければならないのでいろいろと大変です。ただ、今学んでいるコンピュータの基礎知識が今後の研究へと役立っていくはずなので、しっかりと理解しておきたいと思います。初めて自分でプログラムを組み、思ったとおりに動いた時は、ものすごくうれしいものでした。地道な努力が実を結ぶようにがんばっていきたいと思います。2回生になり、コース配属があり、希望のコースに進むことができました。やりたいことも見つかり、目標に向かってがんばっていこうと思います。

奨学会からのコメント

今、他大学も含めて情報学科の是非が問われている。コンピュータのみならず、情報哲学、プログラム哲学なる人文的思索もふくめて、情報科学の基礎もやって戴きたい。京大とはそういう大学の筈。

加藤 久美子　愛知淑徳大学 コミュニケーション学部言語コミュニケーション学科3年（麗澤瑞浪高校卒）

2年次の後期も、専門である日本語の授業を中心に履修しました。1年次の時から続けて履修している日本語の表現演習の授業では、ディベートとプレゼンテーションの演習をしました。どちらも準備に大変な労力を要し、また、聞き手に自分の言いたい事柄を伝えることの難しさも知りました。実際にやってみて、自分の能力の至らなさを痛感しましたが、同時に周りの仲間の良い点も多く発見することができました。他人の良い所は吸収し、自分の悪い所は反省して、これからの演習に役立てていきたいです。教養の授業でも言語表現を履修し、アナウンサーの講師の方から話し方について学びました。これからは口頭で発表する能力も伸ばせるように努力したいと思っています。

奨学会からのコメント

実際に読んでもらう絵本の制作、ディベート等々、相手なくして成立不能。そんな分野の研究を進化させ、若者のコミュニケーション能力の危機を打開する道はないのか。対話の楽しさの復活を。

鈴木 悟司　東京大学 理学部生物化学科3年（可児高校卒）

理学部生物化学科へ進学し、キャンパスも駒場から本郷へと移りました。授業は実験を合わせ現在23コマ分履修しており、平日の午後は毎日実験を行っています。私が「生物化学科」を選択したのは、DNA関連の一般書籍を読み、興味をもったからなのですが、もともと私は生物を履修していなかったため、今の授業のレベルの高さや実験での同級生との知識量の違いに戸惑うことも多くあります。しかし、そのハンディキャップが逆に「何としてでも追いつこう」とするモチベーションを高めているのも確かで、毎日実験が終わる度に図書館に行き、文献と首っぴきで勉強している毎日に楽しさや充実感を感じています。このように、今年度は、1・2限に講義、3・4・5限に実験、その後は図書館で予・復習というハードな生活を送らなければならないですが、それを生物化学の分野で成功する礎と位置づけ、モチベーションを保ちながら、しっかりと勉学に励んでいきたいと思っています。

奨学会からのコメント

ＤＮＡの解明で一躍花形の学科。岡田節人、竹内久美子など京大勢面白人物多し。東大勢の噂をあまり聞かないのはこちらの勉強不足か。頑張れ。

小林 春美　金沢大学 薬学部総合薬学科3年（岐阜高校卒）

3年生の授業が始まってまだ一週間も経っていませんが、新しく購入した教科書を読んだり、授業を受けたりしていると、1・2年の授業内容がいかに基礎的なものだったかを痛感します。具体的な医薬品名と、それを用いるべき病気、またその関係について学び始めたのですが、覚えるべきことや考えるべきことが多いだけでなく、患者さんのことも考えて行動できるようになるため、倫理観や人とのコミュニケーション能力も問われるようになりました。コミュニケーション能力というのは、日々私が自分に足りないと思っているものだけに、前途はまだまだ多難だと感じてしまいます。また、後期からは研究室に配属されるので、今のうちに色々な研究室へ行って、研究内容を見せてもらっています。研究室で実際に先輩方が研究をしているのを見ると、とてもやる気が出てくるので、これからも機会がある度見学してこようと思っています。

奨学会からのコメント

初めての選挙投票に緊張して文字どおり汗をかいたとのこと。その優等生ぶりにびっくり。人生は失敗の連続だと思うのは人文系の発想で、間違った薬を処方したら取り返しがつかないということか。研究室見学はおおいにするべし。そして研究でおおいに試行錯誤すべし。

喜多川 権士　静岡大学 農学部森林資源科学科3年（岐山高校卒）

1・2年生を通して、森林科学の基礎となるべき学問や、そこから広がるための足がかりとなる社会一般の教養の学問に触れてきました。大学の上級生となった今、いよいよ自分の最も興味のある分野へ進んでいく時期にきていると感じています。僕は元より環境問題に自分の将来取り組むべきものがあると信じて大学に進学しました。静大農学部では、3年時に森林コース、木質コースに分かれるのですが、僕は森林コースに進み、「造林学研究室」に所属する予定です。そこで、人間と調和した森づくりについて学ぶつもりです。これからの時代、森と人とを完全に隔離するのでなく、森と人とが触れ合うことで、心の豊かさを感じたりする。それによって自分の心の中に緑があることの充実感を人間は知っていくべきだと考えています。そのためには、森林伐採などで問題になっている所で「開発か保全か」と二択にするのではなく、そのどちらも満たす第3の選択肢を示す必要があるのです。その第3の選択肢を模索していくために、造林学研究室に入ります。また、それ以外に、社会学や共生学、経済学など「人と文化」についても勉強していくつもりです。

奨学会からのコメント

生活、学業状況ともに感服。里山との共生は日本人の自然との付き合い方の傑作だった。かつての里山経済システムを再構築できないか。日本造林業の再生の期待大。